

第 34 回電子情報化委員会 議事録（案）

日時：2008 年 7 月 28 日（月）15:00～17:30

場所：JCI 会議室

出席者：中村委員長、三木幹事

浅本、甲斐、金久保、高橋、八十島の各委員
（事務局）五十嵐専務理事、井上、戸口

資料

34-0：電子情報化委員会（第 34 回）議事次第

34-1：第 33 回電子情報化委員会議事録（案）

34-2-1：メールニュース登録者数の推移

34-2-2：メールニュース配信作業手順

34-3：電子情報化委員会 2008 年活動計画（案）

34-4：電子情報化委員会名簿

議事

1. 第 33 回議事録（案）の確認

第 33 回議事録（案）が確認された。

2. メールニュースについて

(1) メールニュース登録者データの報告があった。（事務局）

- ・ 2008 年 7 月現在で、1866 名（会員 669 名、非会員 1197 名）の登録がある。

(2) 紙面による登録申込の報告があった。（事務局）

- ・ 年次大会において、8 件の申し込みがあった。登録は事務局で行う（数が多い場合は、アルバイト対応）。
- ・ 今後、技士試験会場で実施予定。

(3) 次回担当

- ・ 2008/10、11：浅本 2008/12、2009/1：兼松 2009/2、3：吉岡

3. 新委員について

(1) 新委員の紹介があった。

- ・ 新委員：浅本委員、兼松委員、吉岡委員（いずれも材料系）
- ・ 交代予定：秋山委員（2008.7 まで）、金久保委員（2008.9 まで）、楠委員（2008.9 まで）

4. 今後の活動計画について

(1) 三木幹事から資料 34-3 に基づき、電子情報化委員会 2008 年活動計画案の説明があった。

- ・ 短期、中期、長期に区分し、各時期における電子情報化活動を理事会等に提案していきたい。

- (2) 中村委員長から、電子情報化委員会の発足経緯、今までの活動状況の説明があった。その後、活動全般に関してフリーディスカッションを行った。
- ・ 野口前委員長の時には、各個撃破的に、できるものから実施していった。今後、全体像を眺みながら、電子情報化委員会として提案をしていきたい。
 - ・ 公益法人として、活動内容を不特定多数に発信していくことが必要とされる。年内には方針が出されるか？
 - ・ 出版物の公開に対しては、5年（権利物の廃棄）が目処になる。つくば大会（2002）の年次論文集は web 公開予定（電子情報化委員会で予算化）。
 - ・ JCI で、デジタルアーカイブ化を、取り組むべき事業として捉えられるか。理事会へ提案していく。バックデータを整理する必要がある。「電子情報化委員会アクションプラン 2010」の提案を今期の目的とすることになった。
 - ・ デジタルアーカイブ化対象：コンクリート工学誌、コンクリート工学論文集、委員会報告、年次論文集、etc.（事務局で電子ファイルを保有しているもの：委員会報告）
- (3) 個別の作業に関して、役割分担案を議論した。以下、担当項目、担当者、および現在考えられる作業内容である。
- ・ メールニュース（高橋）
これまでのメールニュースのコンテンツは、主に会報に掲載されていた各種情報を一部簡略化したものであった。今後は、メールニュース独自のコンテンツもあわせて配信することを目指し、編集企画案、および読者確保に向けた戦略を提案していく。さらに、他学協会の同様なメールニュースについての調査も行う。
 - ・ デジタルアーカイブ化（三木）
JCI におけるデジタルアーカイブ化に関する本委員会全体の活動状況を把握、整理する。また、他学会におけるデジタルアーカイブ化の状況を調査する。
 - ・ コンクリート工学誌（兼松）
例えば工事記録など、概要、キーワードは HP に掲載されているが、今後は、本文に加え、写真や図を掲載可能か、検討する。さらに、HP のメリットでもある多くの写真や、映像、動画、アニメーションの掲載など、冊子版とは異なる内容とすることが可能かどうか、検討する。ただし、著作権など、クリアする課題あり。
 - ・ コンクリート工学論文集（椋山）
現状は紙ベースで投稿しているため、デジタルコンテンツがない。これまでの論文を含め、今後は電子投稿の上、デジタルアーカイブ化できるかどうか、できる場合はその活用方法、掲載方法を検討していく。
 - ・ コンクリート工学年次論文集（田所）
論文集の印刷版の必要性を検討する。その他の検討として、CD-ROM 化以後の論文の取り扱い（とりあえずつくば大会分は掲載予定）、販売中の論文集の掲載可能な経過年数、など。
 - ・ 研究委員会 HP 対応（浅本）
研究委員会 HP の更新状況の把握、より多くの委員会にて更新してもらうための戦略、研究委員会 HP 自体の取り扱いについてなど。なお、浅本委員は、現在、収縮ひび割れ研究委員会における HP 担当である。

- ・ JCI メイン HP 対応（吉岡）
リニューアルした JCI メイン HP の内容について、新たに加えられたコンテンツを含め HP 全体を再検討し、新コンテンツを提案していく。また、今後デジタルアーカイブ化していく上で、サーバ容量の限界も近く、ハードウェア対策を要することが指摘された。
- ・ 年次大会全般（甲斐）
当面は、大会後、コンクリート工学誌に掲載される概況の HP 化、さらに写真を加えた HP 版大会概況の作成を目指す。年次大会の開催状況を HP に掲載することも考える。
- ・ 年次論文査読システム契約対応（八十島）
大会実行委員から、費用が高いなどの意見が出ており、契約内容を検討する。
- ・ 電子情報化委員会 HP、委員会報告書（田嶋）
電視情報化委員会自体の HP をよりよくしていく。委員会報告書は、既に事務局に電子ファイルであるため、それらの活用方法について提案する。

なお、担当者未定の作業につきましては、兼松、椋山、田所の間で協議の上、3 名にいずれかを対応していただきます。

5. 次回委員会

- ・ 2008 年 9 月 16 日（火）15:30～